

日合、日大交渉に入り警察の手では何れも合点と争議團の直談判、その結果解雇者二十四名の中止の獲得、解雇手当一ヶ月分休業手当一割と云ふ点を以て落着きするに至り、遂に廿二日午後四時印をすまし四時半トシ降参雨の中を組合旗を先頭に隊伍整へ入場式を行ひ争議團の演説を三喝して引退、紀念撮影及び悲壮なる解散式を行ひ、遂に今回の争議の幕を閉ぢることに成りました。本組合争議部として其又ウ一週間の持久によつて完全なる勝利を獲ることに確信をもつて居ました。お身謀團の経済的逼迫や官憲のや崩しのため茲に他日を期して戦鋒を灼めぬことを得たかつた次第であります。果敢た諸君の絶大なる内援を感謝いたします。

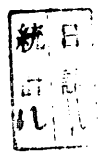
大正十四年六月二十三日

敬

大相 仲 錫 西 争 議 団
東京 合 自 治 協 会 組 合

勞 務 第 六 七 號

大正十四年六月一日



警 視 總 監 太 田 政 弘

事務大臣 若 槻 清 次 郎 殿
 社会局長 長 恩 隆 一 郎 殿
 東京地方裁判所 検 事 正 殿
 京 都 大 及 神 奈 川 愛 知 兵 庫 海 兵 殿
 右 存 照 知 事 殿

14.6.3
第 849 号

村松時計工場労働争議一聞スル件
府下西栗鴨所池袋千百十一番地所在標記工場、村松製